

ロス対策士の皆さん

今回は、最近のネットニュースにあった万引に関する記事とアメリカのあるスーパーマーケット内に併設された調剤薬局で行う高齢者詐欺対策啓発教育プログラムについてです。アメリカでもっとも尊敬される職業は消防士だといえます。次が薬剤師です。（と聞いたことがあります。）私たちが仕事としている小売業の社会的な役割をもう一度思い起こしたいですね。

### ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

万防機構のXをフォローしてください。「万防機構」と検索すると見つかります。

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構  
LP教育制度作成委員会

### 万引きの常習犯か…書店でコミック本2冊を盗んだ34歳女を現行犯逮捕「換金してお金にしようと思った」と供述

9月30日夕方、札幌市中央区の書店でコミック本2冊を盗んだとして、34歳の無職の女が逮捕されました。窃盗の疑いで逮捕されたのは、札幌市白石区に住む、無職の34歳の女です。女は30日午後4時すぎから午後4時半ごろまでの間に、札幌市中央区南1条西1丁目の書店で、コミック本2冊（販売価格合計1584円）をトートバッグに入れて盗んだ疑いが持たれています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/59c7a538a3a50124d378b0183b2943e2f046ddee>

### 家電量販店でドライヤー万引疑い、郡山の夫婦逮捕 須賀川署

須賀川署は30日午前、盗みの疑いで郡山市宇上亀田、無職の女（43）、夫の土木作業員（43）の両容疑者を逮捕した。逮捕容疑は、共謀して8月21日午後1時25分ごろ、郡山市の家電量販店でドライヤー1点（3万5200円）を盗んだ疑い。

[夫婦でドライヤーを万引きか…夫は「知りません」容疑を否認 福島・郡山市（2024年9月30日掲載） | 中テレNEWS NNN \(ntv.co.jp\)](#)

### “あの万引き犯”がきた！様子見ていたら 咳止め薬を袖に…18歳「金もったいない」

札幌・北警察署は2024年9月30日、窃盗の疑いで札幌市北区に住む自称・アルバイト従業員少年（18）が現行犯逮捕されたと発表しました。

少年は30日午前10時ごろ、札幌市北区の商業施設で、医薬品1点（販売価格1518円）を

盗んだ疑いが持たれています。

この少年は、以前から商品を万引きしている疑いがあるとして被害店舗が注意を払っていたところ、この日も来店したことから、防犯カメラのモニター越しに警備員が動きを確認していました。

すると、長袖の上着を着た少年が液体の咳止め薬を棚から取り、袖の中に隠して店を出たため、警備員がその場で身柄を取り押さえました。

<https://www.stv.jp/news/stvnews/kiji/st1863555f8af846788c86a54c0f056df4.html>

### **万引き犯をとっさにおさえつけ 23歳女性に鶴見警察署から感謝状**

今月16日、横浜市鶴見区の[コンビニエンスストア](#)で万引き犯の確保に協力したとして、23歳の女性に県警から感謝状が贈られました。鶴見警察署から感謝状が贈られたのは、23歳の会社員梁果琳さんです。「早く四肢を封じることだけを考えていたので周りの状況とかは、ちょっと見えてなかった。必死です!!」梁さんは今月、横浜市鶴見区のコンビニエンスストアで万引き犯に遭遇。男性店員が万引き犯を取りおさえようとしているなか梁さんがとった行動は、(コメント：決して真似をしないでください。)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/917cd317e3f1b1ada04c4e58d6a9f541e59eb3af>

### **ハナフォードファーマシーがメイン州全域で高齢者詐欺対策啓発教育プログラムを開始**

スーパーマーケットチェーンのハナフォードは、メイン州、ニューヨーク州、マサチューセッツ州、ニューハンプシャー州、バーモント州で189店舗を展開し、そのほとんどにフルサービスの薬局を持っている。

米国検事局、AARPメイン州、およびメイン州高齢者虐待防止評議会は、メイン州にあるハナフォードファーマシーのすべての店舗で高齢者詐欺対策啓発教育プログラムを開始する。

メイン州連邦検事局は薬剤師とその顧客の信頼関係を利用して高齢者に詐欺対策教育を行おうという革新的な高齢者詐欺啓発教育プログラムを発表した。

このプログラムは、詐欺の一般的な手口と高齢者詐欺の報告を含む対策についてメイン州民を教育することを目的としており、メイン州全体の[ハナフォードファーマシー](#)の60の店内薬局で開始される。啓発用パンフレットは、ハナフォードファーマシーの顧客に配布するための処方箋に添付されて渡される。

「私たちは、高齢者とその介護者が私たちの顧客の大きな部分を占めていることを認識しており、健康と安全情報の信頼できる情報源として、サービスを通じてこの顧客に直接情報を届けることのできる独自の立場にあることを認識しています」と、ハナフォードスーパーマーケットの薬局サービスマネージャーであるサラレーンは述べている。「私たちは常に、サービスを提供するコミュニティにプラスの影響を与える機会を探しています。この情報を州の隅々にある薬局の顧客が利用できるようにすることで、私たちの目標はメイン州にお

ける高齢者詐欺事件の数を減らすことに寄与することです。」

高齢者詐欺は、全米で大きな問題となっており、昨年、60歳以上の101,000人以上が、増え続ける詐欺によって34億ドル(およそ5000億円)を騙し取られた。FBIによると、その数には、昨年、総額710万ドル(およそ10億円)以上の詐欺被害を申し立てた397人のメイン州民がおり、最近の巧妙な詐欺は被害者の人生の蓄えを奪っている。

「薬剤師は最も信頼される医療提供者として認識されており、65歳以上の10人中約9人が定期的な処方箋を持っているため、薬剤師はこれらの人々に情報を提供する取り組みの重要なパートナーとなるはずです」と、米国弁護士のダーシー・N・マケルウィーは述べている。「その信頼と定期的な連絡により、薬局は高齢のメイン州民だけでなく、その家族や介護者にも情報を提供するための理想的なパイプ役となっています。」

情報資料は、メイン州高齢者虐待防止評議会の支援を受けて、米国検事局によって作成されたもので、詐欺の一般的な手口と、全国高齢者先ホットラインに関する情報が含まれている。

<https://lnktrk.progressivegrocer.com/ODI1LUxTUC01NDUAAAGVelsY6wtEeWir1HwMa09oUGdCdMHjA3IaHZsh7tiyY5lYd-6nY7p7RKO4nUac64WUpE6owzg=>